

3 林産物の安定供給体制づくり

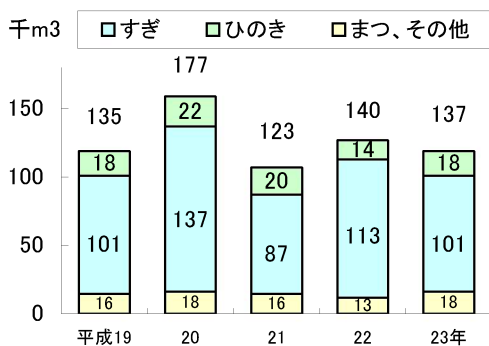
作業道の整備や高性能林業機械の導入による木材生産コストの縮減と併せ、県内6か所にストックポイントを設置し運搬コストの縮減を図りました。木材生産量は137,000m³と、世界的な景気後退前の平成19年度の水準で推移しています。きのこ類の生産量はぶなしめじなど26,143tで、前年比4%増加しました。

(1) 県産材の安定供給体制の整備

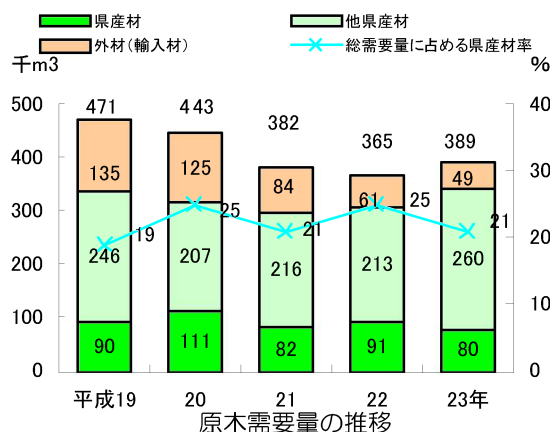
○ 原木

(原木需要量は増加)

- ・原木の生産量は137,000 m³で、前年に比べ3,000 m³減少しました。世界的な景気後退前の平成19年の水準に回復し、横ばいで推移しています。
- ・原木需要量は前年に比べ24,000 m³増加し389,000 m³で、このうち県産材の需要量は80,000 m³、前年に比べ11,000 m³減少しました。このため、原木需要量に占める県産材の割合は21%となり、前年に比べ4ポイント減少しました。
- ・木材生産・流通コストの縮減により、県産材の供給力を高める必要があります。



資料：農林水産省統計部「農林水産統計」「木材需給報告書」



資料：農林水産省統計部「農林水産統計」「木材需給報告書」

(木材生産や流通でのコスト削減効果の実証が進む)

- ・県では、平成20年度から5か年計画で、森林組合と製材工場との協定による木材の安定供給に向けた取組を、朝倉農林管内においてモデル的に実施しています。
- ・市場でのせりを行わず、製材所へ直接販売することで流通コストを3割削減、また、伐採区域をまとめることで、効率的な作業路網の整備や、高性能林業機械の活用が可能となり、木材生産コストを従来に比べ3割削減することが出来ました。

「ふくおか林業・木材産業再生促進事業」の実績

内容	年度	H20	H21	H22	H23	合計
作業道の開設(m)		12,006	14,499	21,972	8,008	56,485
高性能林業機械等の導入(台)		4	2	-	-	6
素材生産量(m ³)		50,988	40,242	40,328	50,334	181,892
(協定分)		4,923	12,807	11,384	12,564	41,678

資料：林業振興課調べ



フォワーダによる木材の搬出状況

【高性能林業機械の導入により効率的な木材生産を実現】

- ・県内の高性能林業機械は 64 台で、前年に比べ 8 台増加しました。
- ・近年、既存の林内作業車に比べ走行能力が高く積載量が大きいフォワーダの導入が飛躍的に進んでいます。
- ・効率的な架線集材による木材搬出を行うための「林業架線作業主任者研修」や森林整備の基盤となる森林作業路の開設のための「森林作業道作設オペレーター研修」を、森林組合等の林業事業体を対象に実施し 25 名のオペレーター等を養成しました。

高性能林業機械保有台数の推移

(単位：台)

	H19	20	21	22	23年度
プロセッサ	12	11	12	12	14
ハーベスタ	9	9	10	11	12
フォワーダ	14	16	19	24	29
スイングヤーダ	4	4	4	5	6
タワーヤーダ	4	3	3	3	3
その他	0	1	1	1	0
合計	43	44	49	56	64

資料：森林林業技術センター調べ



林業架線作業主任者研修



森林作業道作設オペレーター研修

【主な高性能林業機械】

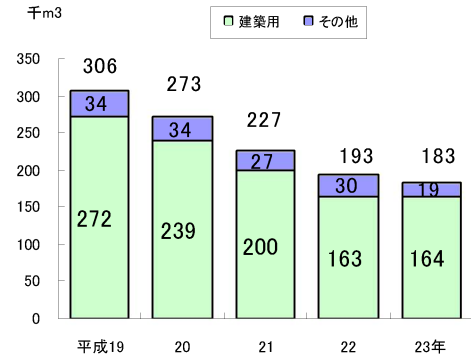
<p>プロセッサ</p> <p>木材の枝払い、測尺、玉切り※を連続して行う機械</p> 	<p>ハーベスタ (ストローク式)</p> <p>立木の伐倒、枝払い、玉切りの各作業と材の集積作業を一貫して行う機械</p> 	<p>フォワーダ</p> <p>木材をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ集材専用の機械</p> 	<p>スイングヤーダ</p> <p>建設用ベースマシンに集材用ウインチを搭載し、アームをタワーとして使用する集材機械</p> 
--	---	--	---

※玉切り：立木を伐倒し枝払いをした後、用途に応じて定められた長さに切断して丸太にすること。

○ 製材品

(建築用製材品の出荷量は横ばい)

・製材品出荷量は 183,000 m³で、前年に比べ 10,000 m³減少しましたが、建築用製材品としては、前年に比べ横ばいで推移しています。



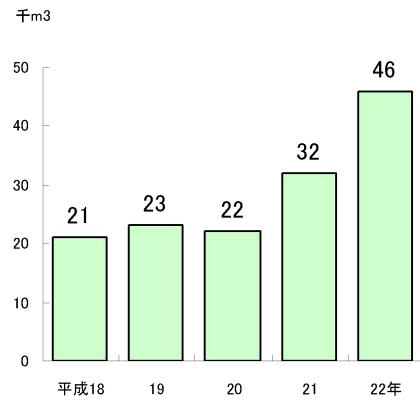
福岡県内の製材品出荷量の推移

資料：農林水産省統計部「農林水産統計」「木材需給報告書」

(人工乾燥材の生産量が増加)

・建築用材は、品質や性能の確かな製材品への要求が高まっていることから、人工乾燥が必要となっています。

・平成 22 年の乾燥材生産量は 4 万 6 千 m³で、前年に比べ 1 万 4 千 m³増加し、建築用製材品に占める割合は 3 割となりました。



福岡県内の乾燥材生産状況

資料：林業振興課調べ

(人工乾燥施設整備を推進)

・県では、平成 20 年以降、人工乾燥施設の整備が進んでおり、人工乾燥材の生産が増加しています。22 年の生産量は、4 年前の 2.2 倍となっています。



人工乾燥施設

(県産材を利用した住宅建設等を支援)

・平成 23 年度、福岡県産材を利用した住宅の新築やリフォーム等 86 棟に支援しました。



県産材を利用した木造住宅

(木造公共建築物の整備を拡大)

・県では、平成 24 年 1 月「福岡県内の公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針」を策定し、県が整備する低層の公共建築物は原則として木造化を図ることとしました。

・また、学校施設など利用者が多く展示効果の高い木造公共建築物の整備を支援し、木材の良さをPRしました。

・市町村においても、これまでに 5 市町*が木材利用方針を策定しています。今後は、県内全ての市町村が木材利用方針を策定し、木材利用を拡大していくことが重要となってきます。

※平成 24 年 5 月 1 日現在。



木製外構施設（大木町）

平成 23 年度の木造公共施設等整備状況

広川町	中学校武道場
大木町	外構施設(交流広場)

(住宅メーカーなどへ県産材をPR)

・平成 23 年 9 月にマリンメッセ福岡（福岡市博多区）で開催された、住宅メーカーや工務店、一般ユーザーを対象とした展示会で県産材フェアを実施し、約 11,000 人の来場者に県産材のPRを行いました。

・また、木の日(毎年 10 月 8 日)にちなんで、福岡市植物園で県民を対象としたウッドフェスタを開催し、約 17,000 人の来場者に木材利用の普及啓発を図りました。



県産材フェアの開催



ウッドフェスタの開催

【福岡県内の公共建築物等における木材の利用の促進に関する方針】

方針のポイント

- 建築基準法の基準で耐火建築物とすること等が求められていない低層の公共建築物について積極的に木造化を促進。県が整備する低層の公共建築物については、原則として木造化を図る。
※ 災害時の活動拠点施設などは木造化の対象外。
- 木造化が困難な場合でも内装等の木質化や公共土木工事用資材における木材の利用、備品や消耗品としての木材の利用並びに木質バイオマスの利用を促進。
- 公共建築物の整備に適した木材の円滑な供給の確保を図る。
- 県は、関係部局と連携し木材利用を推進するとともに、市町村や民間事業者に対して必要な支援を行う。
- 市町村は、県方針に即し市町村方針を作成するよう努める。



木材を工夫して利用した事例
(うきは市：うきはアリーナ)



木造3階建の事例
(福岡市：九州大学伊都ゲストハウス)



内装の木質化の事例
(八女市：公立八女総合病院)

【県が整備する木材利用の目標数値】

木材利用量：現状(H22) 6,000m³
→ 目標(H33) 8,000m³



公共土木工事用資材への利用



備品としての利用



間伐材を利用した紙

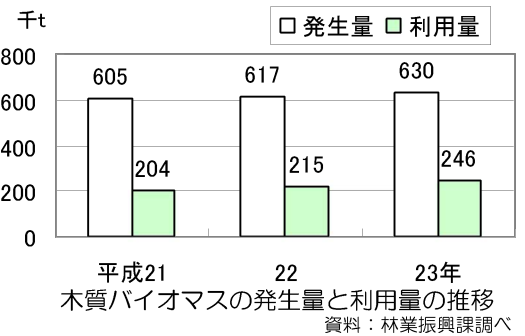
○ 木質バイオマス

(木質バイオマスの利用が増加)

・県内の木質バイオマス^{*}の発生量は63万t、このうち資源として利用されているのは約4割の24万6千tとなっており、前年に比べ14%増加しました。

・未利用間伐材の利用拡大をさらに進めていくことが求められています。

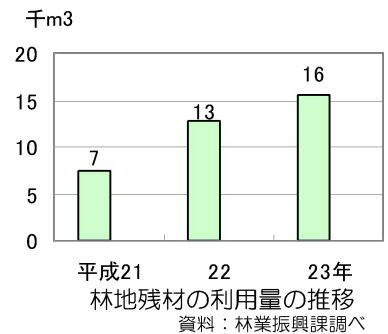
^{*}バイオマス:再生可能な生物由来の資源。林内に放置された間伐材、製材所で発生する端材、おが屑、建築廃材などを、木質バイオマスと呼ぶ。



(林地残材の利用量はストックポイントの設置で2.3倍に増加)

・間伐等で発生する材は、多くが未利用であったことから、平成22年度から林道沿いの「1次ストックポイント」に搬出された間伐材を、県内6カ所に設置した「2次ストックポイント」に集積する取組を開始しました。

・この結果、効率的な搬出・集積が進み、23年の林地残材の利用量は1万6千m³で、21年の利用量の2.3倍に増加しました。主に、木質バイオマスエネルギーや製紙用チップとして有効利用を図りました。



ストックポイントに集積された間伐材

(木質バイオマス熱利用機器を2施設で導入)

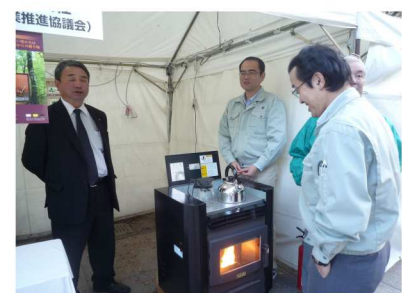
・農林水産まつりにおけるペレットストーブの展示・実演会や県内各地に設置している木質バイオマス利活用推進協議会によるチップボイラーの普及啓発活動などにより、木質バイオマス熱利用機器の導入を推進しています。

・平成23年度は、これらの取り組みを通じて木質チップを燃料とするボイラーが県内の2施設に導入されました。

平成23年度県内の木質バイオマスボイラー導入状況

施設名	所在地	用途
グリーンピア八女	八女市	温泉の加温
オアシス篠栗	篠栗町	温泉の加温

資料: 林業振興課調べ



農林水産まつりにおける普及啓発活動

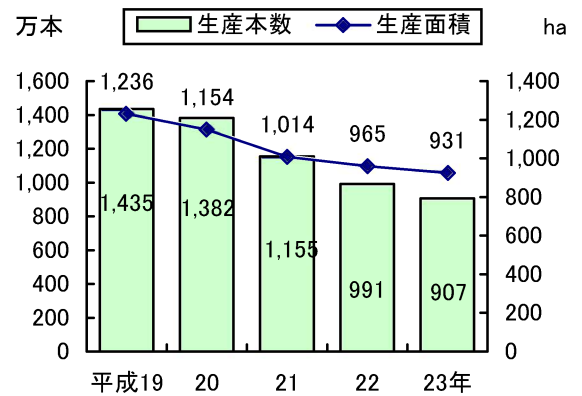
○ 緑化

(緑化木生産は減少)

・緑化木[※]の生産本数は 907 万本で、前年に比べ 84 万本減少、生産面積は 931ha で、前年に比べ 34ha 減少しました。

これらは、公共事業の減少や住宅様式の変化などによるものです。

・需要が減少している中で、需要者ニーズにあった緑化木の生産が必要です。



福岡県産緑化木の生産本数・生産面積

資料：林業振興課調べ

※緑化木:良好な生活環境の維持形成などのために、公園、工場、住宅、学校、道路などに植栽される樹木。

(県産緑化木をPR)

・(社)福岡県樹芸組合連合会では、第17回福岡県農林水産まつりにおいて、県産緑化木のPRを行うためギンバイカ[※]の展示・販売、緑化相談を行いました。

・生産者に対して、生産技術や品質の向上を図るため「ほ場品評会」と「出荷品評会」の2つの品評会を開催し、最も優れた出品者に、農林水産大臣賞が贈られました。

・福岡県緑化センターでは、県民に対し緑化に関する講習会や相談を行い、緑化意識の啓発を図ると共に、緑化技術の指導を行っています。

・県が発注する緑化工事では、原則として県産緑化木を使用する取組を行っており、約 38,000 本を植栽しました。

※ギンバイカ:夏に梅の花に似た白い花をつけ、実や花がスパイスとして利用される。花言葉は愛で、結婚式のリースとしても利用されている。



ほ場品評会
農林水産大臣賞受賞ほ場 (久留米市)

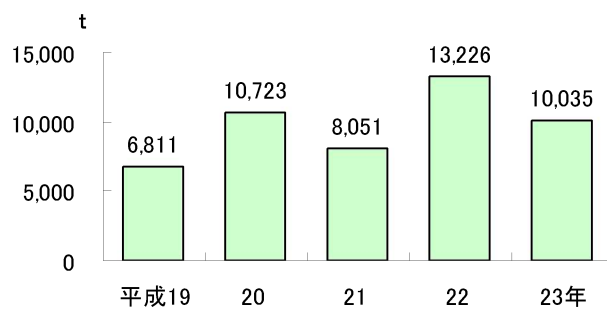
(2) 特用林産物の安定供給体制の整備

○ たけのこ

(生産量は増加傾向)

・たけのこ生産量は 10,035 t で、前年に比べ 3,191t 減少しました。表年※・裏年による生産量の増減があるものの、国産志向の高まりから生産量は増加傾向となっています。

※表年：豊作年。不作年を裏年という。



たけのこ生産量の推移

資料：平成 22 年特用林産基礎資料（林野庁）、
農山漁村振興課調べ

(たけのこ早出しの栽培技術が進む)

・早春の早出したけのこは、単価が高く収益性の向上が期待できます。

・早出しには、冬場の竹林の地温低下を防ぐため、地面を覆う「マルチング」が行われています。

・県では、生分解性素材を使ったマルチング試験を実施した結果、剥ぎ取りが必要な従来のビニル素材のマルチングと同じかそれ以上に早出し率が増加することが分かりました。

・今後、素材が分解するまでの処理方法を検討し、技術の確立を目指します。



生分解性素材を用いた
たけのこの早出し試験

(タケノコ栽培塾で生産者を育成)

・県では、新たな生産者を育成するため「タケノコ栽培塾」を開催し、講義のほか現地研修を実施しました。

・17名の受講者の半数以上が、たけのこ生産を始めています。



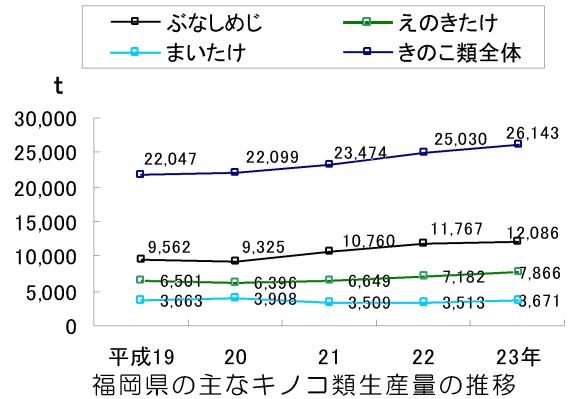
福岡県森林林業技術センターにおける
「タケノコ栽培塾」の現地研修

○ きのこと類

(きのこと類の生産量は増加傾向)

・主なきのこと類の生産量は26,143 tで、前年に比べ1,113t増加しました。この10年間増加を続けています。

特にぶなしめじ、えのきたけ、まいたけはいずれも全国3位の生産量。堅調な需要を背景に生産拡大が続いています。



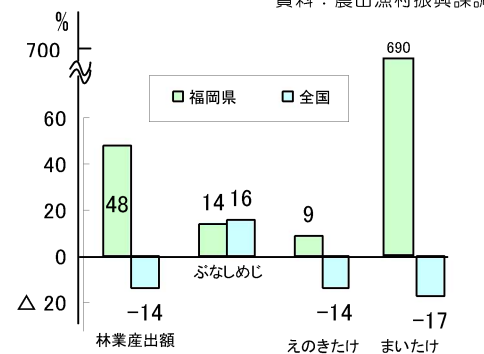
福岡県的主要キノコ類生産量の推移
(乾シイタケ、生シイタケ、ナメコ、エノキタケ、ヒラタケ、ブナシメジ、マイタケ、エリンギの合計)

資料：農山漁村振興課調べ

(きのこと類に支えられ、林業産出額増加率が全国1位)

・きのこと類の生産量の増加に伴い、林業産出額は年々増加しています。平成22年の林業産出額は130億円で、うちきのこと類は113億円で87%を占めています。

・この10年間の産出額の伸び率では、ぶなしめじ14%増(全国16%増)、えのきたけ9%増(全国14%減)、まいたけ690%増(全国17%減)と大きく増加しています。



林業産出額の増加率 (H22/H13)

資料：生産林業所得統計

これに伴い、平成13年からの林業産出額の伸び率は規模が小さい沖縄県を除き、全国1位となっています。

・県では平成13年度の「博多ぶなしめじ」の品種登録をはじめ、生産施設の整備への支援や、きのこと類の消費拡大に向けたPR等に取り組んできました。今後とも県産きのこと類の競争力を高めていきます。

林業産出額伸び率のベスト10

順位	県	林業産出額(億円)		伸び率 (%)
		平成13	22年	
1	福岡県	88	130	148
2	徳島県	67	98	147
3	広島県	64	78	122
4	山形県	69	81	118
5	山梨県	15	18	117
6	鳥取県	23	26	111
7	富山県	23	26	110
8	秋田県	120	132	110
9	宮崎県	208	227	109
10	長崎県	49	53	108
	全国	4,750	4,217	89

資料：生産林業所得統計

※H22産出額が5.6億円の沖縄県を除く

(きこの害虫防除マニュアルを作成)

・森林林業技術センターにおいて、本県のきこの類のさらなる生産技術の向上のため、きこの類の栽培において、生産性を妨げる一因である害虫(カミキリムシ類、ガ類、キノコバエ類など)の生態を解明し、それに基づく防除方法の研究を行いました。

・この結果を九州各県と(独)森林総合研究所九州支所との共同でまとめ、その成果を生産者の方々が使いやすいようにマニュアルにして配布、指導を行っています。



きのこの害虫防除マニュアル

【17名・2団体が受賞された表彰行事一覧】

表彰行事名	部門・賞の名称	市町村名	氏名・団体名
平成23年度全国山林苗木品評会	全国山林種苗協同組合連合会長賞	朝倉市	佐藤 和正
第36回福岡県竹林品評会	竹林の部 農林水産大臣賞	八女市	田中 繁
第42回福岡県椎茸品評会	乾椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	山口 良春
第42回福岡県椎茸品評会	生椎茸の部 農林水産大臣賞	八女市	原口 武士
第30回福岡県椎茸ほだ場コンクール	県知事賞（優秀賞）	筑前町	大石 登
第62回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	北九州市	村田 致
第62回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	朝倉市	小川 稜人
第62回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	芦屋町	洞山保存と郷土史を語る会
第62回福岡県植樹祭	緑化功労者 福岡県知事賞	行橋市	ハローグリーン ・けいちく
第62回福岡県植樹祭	大会テーマ 最優秀賞	芦屋町	松井 隆寛
平成23年度福岡県緑化樹芸木ほだ場品評会	農林水産大臣賞	久留米市	今村 晃博
第32回福岡県緑化樹芸木出荷品評会	農林水産大臣賞	久留米市	小塩 秀人
平成23年度水源の森ポスター原画コンクール	小学校の部 最優秀賞	苅田町	安部 純菜
平成23年度水源の森ポスター原画コンクール	中学校の部 最優秀賞	福岡市	松浦 ゆうか
第36回全国児童・生徒木工工作コンクール	小学校低学年の部 農林水産大臣賞	八女市	角 毅英
第36回全国児童・生徒木工工作コンクール	小学校高学年の部 林野庁長官賞	北九州市	古江 優多
第24回グリーンフェスティバル	スケッチ大会 金賞	大牟田市	平野 恵子
第24回グリーンフェスティバル	ハンギングバスケットコンテスト 最優秀賞	筑前町	時津 茂子
第24回グリーンフェスティバル	写真コンテスト 金賞	基山町	福原 良一